
丸い丸い人生模様

一河善知鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

丸い丸い人生模様

【Nコード】

N7064B

【作者名】

一河善知鳥

【あらすじ】

風船が大好きなあたしと風船の小さな日。

小さい頃。姉ちゃんが真つ赤な風船を膨らましてくれた。ふーっ、と姉ちゃんが一生懸命に息を吹き込むとまるまる太って、なぜだかとっても満足そう。重たいから、それは地面にぼとりと落ちる。本当はふわふわ浮かぶ風船も好きだったけれど、ぽーんと投げて戻ってくるほうもあたしは好きだった。って、結局どっちも好き。風船って、すごく好き。

だけど一週間もすると風船はしわしわにしぼんでしまった。割れないから、空気は抜けるはずなのに。ぺたぺた触るとあたしは風船の最期を知る。もう満足そうに膨らまない。だって穴なんてあいてないんだ。

今になって思う。風船って人間みたい。たくさんある中でたまたま手にとられて誕生。膨らまされて成長、そして閉じられたらもう大人。あとはゆるりと空気が抜けるのを待っているだけ。

あたしは大人になって、地面に落ちる理由も、空を飛ぶ理由も知っている。もちろん、しおれてしまう運命も。

それでも風船が好きなのである。あの日の姉ちゃんの甘い息が入った風船みたいにまるまる太ったかわいい風船が好きなのである。ふーっ、今でも一生懸命になってしまふときの真つ赤な顔。

「ははは、ママが風船みたい」

子どもに言われた。でもやっぱり、そんなこの子も大きな風船が大好きで、一時間でも二時間でも寝そべって上に投げたりしている。

ふと、いつかこの子にも風船の仕組みがわかるときがきつとくると思った。たぶん、あと五年後か、十年後か、理科の授業でそのことを知る。たぶん、それは取りとめもない授業のひとコマで、きつと今日のことなんてずつと後に思い出す。まるで今のあたしのように。だけど、その日がくるまで、心の風船はどうかしおれないでい

てほしい。

…なんて、すっかり大人になっているあたし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7064b/>

丸い丸い人生模様

2010年12月11日15時06分発行